

Japan Society of Sport Sociology

日本スポーツ社会学会

第26回大会プログラム

【 修正版 】

2017年 3月18日(土)・19日(日)

信州大学教育学部

◆ 3/16(木)付で一部変更がありましたので、こちらのプログラムをご参照ください。 ◆

## 日本スポーツ社会学会第26回大会 開催要項

**【開催期間】**

2017年 3月18日(土)・19日(日)

**【会 場】**

信州大学教育学部 〒380-8544 長野市西長野6-1(イロハの口)

○アクセス方法

- JR長野駅・善光寺口・バス乗り場から中心市街地循環バス「ぐるりん号」に乗車  
「信大教育学部前」まで約10分(150円)

<https://www.alpico.co.jp/access/nagano/gururin/>

- JR長野駅から徒歩約30分

○宿泊関係………宿泊の斡旋はしていません。

**【主 催】**

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>

**【日 程】**

(旧)理事会 3月17日(金)16:00～ M館3階/M301

(新)理事会 3月18日(土)10:00～ M館3階/M301

		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	
18 日 (土)			学生フォーラム 【新たなスポーツ・ マスキュリティ 研究に向けて】 10:00～12:00		受付	一般発表 13:00～14:30			国際交 流委員 会企画 【特別 講演】 14:45 ～ 15:45	大会実 行委員 会企画 【特別 講演】 15:45 ～ 16:45	学 会 総 会 16:45 ～ 17:45	懇 親 会 18:30 ～
			一 般 発 表 9:30～11:30			一般発表 13:00～14:30			研究委員会企画 シンポジウム 【スポーツと視覚】 14:45～16:45			
19 日 (日)												

■ 3月18日(土) ■

【学生フォーラム】

10:00~12:00 N館(講義棟) 101教室[1階]

「新たなスポーツ・マスキュリニティ研究に向けて」

登壇者 兼子歩(明治大学政治経済学部) 岡田桂(関東学院大学国際文化学部)

コメンテーター 竹崎一真(筑波大学大学院)

司会 青野桃子(一橋大学大学院) 村本宗太郎(立教大学大学院)

【一般発表】

13:00~14:30 N館(講義棟) 101教室[1階] 201教室[2階]

【国際交流委員会企画】

14:45~15:45 E館 504教室[5階]

「Aging and Sports」

講演者 Elizabeth Pike (Dr.)

The Head of Sport Development and Management,

Reader in the Sociology of Sport and Exercise and

Chair of the Anita White Foundation at the University of Chichester.

The Past-President of the International Sociology of Sport Association.

【大会実行委員会企画】

15:45~16:45 E館 504教室[5階]

「スポーツのホスピタリティと身体技術の非分離・述語制」

講演者 山本哲士(文化科学高等研究院 ジュエネラル・ディレクター)

【学会総会】

16:45~17:45 E館 504教室[5階]

【懇親会】

日時 : 3月18日(土) 18:30~

会場 : ホテル国際21 弥生の間[2階] ※会場から徒歩10分

会費 : 5,000円 (学生会員4,000円)

■ 3月19日(日) ■

【一般発表】

9:30~11:30 N館(講義棟) 101教室[1階] 201教室[2階]

【一般発表】

13:00~14:30 N館(講義棟) 101教室[1階] 201教室[2階]

【研究委員会企画】

14:45~16:45 E館 504教室[5階]

「スポーツと視覚」

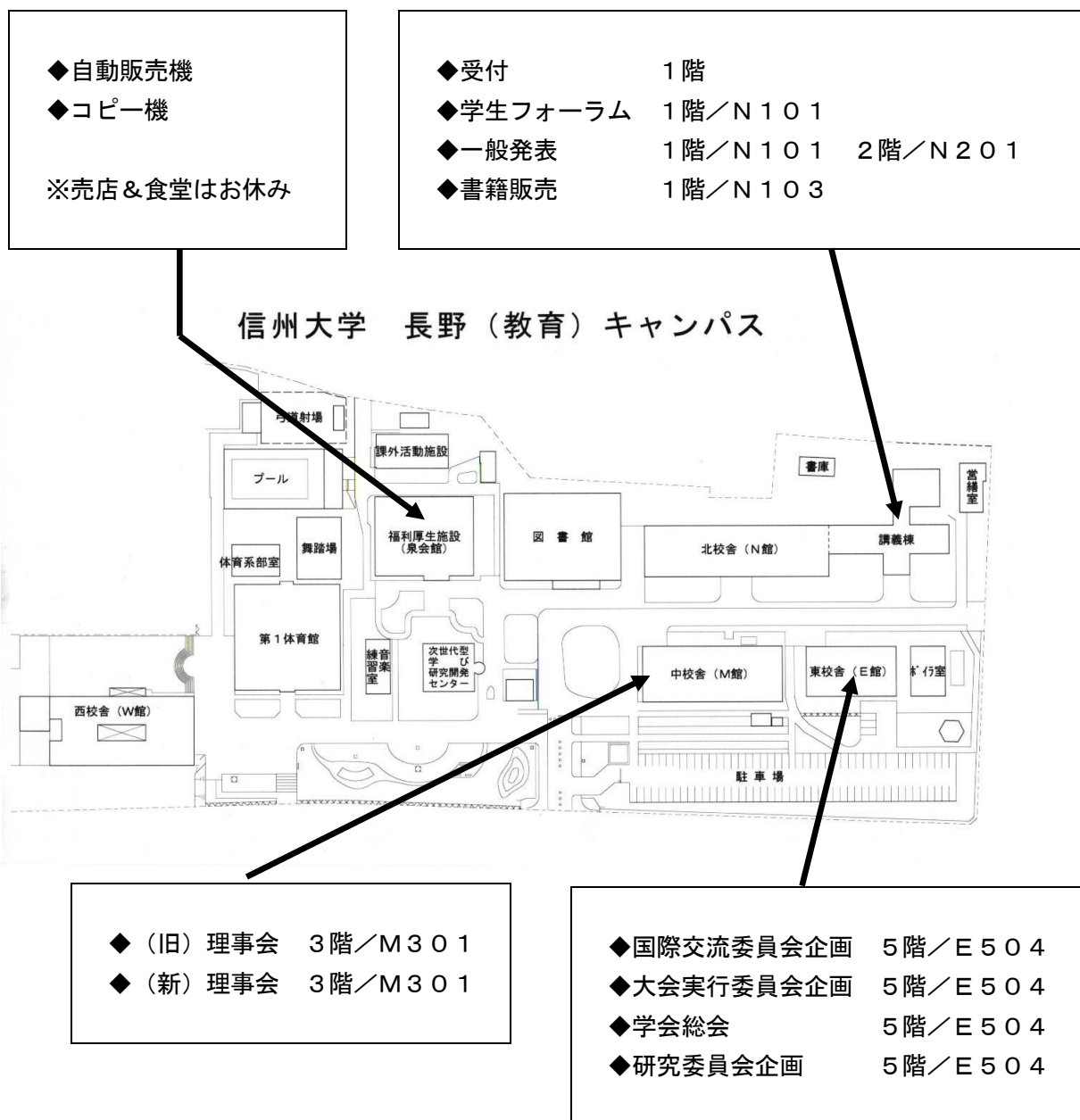
司会 リー・トンプソン(早稲田大学) 石岡丈昇(北海道大学)

発表者 伊藤亜紗(東京工業大学) マルソー・シュノー(華東師範大学)

木村敬一(東京ガス/日本パラリンピアンズ協会)

通訳 倉島哲(関西学院大学)

## ■ キャンパス・マップ ■



## ■ キャンパス・ネットワーク ■

ログイン画面アドレス <https://acsu.shinshu-u.ac.jp/ActiveCampus/index.html>

ログインID hijokin

パスワード 6akEZPy2 ※パスワードは変更しないで下さい。

ログインの後 ⇒左側の ACSU ネットワーク欄  
⇒<ACSU ネットワーク利用 SSO>をクリック  
⇒ネットワーク接続の完了

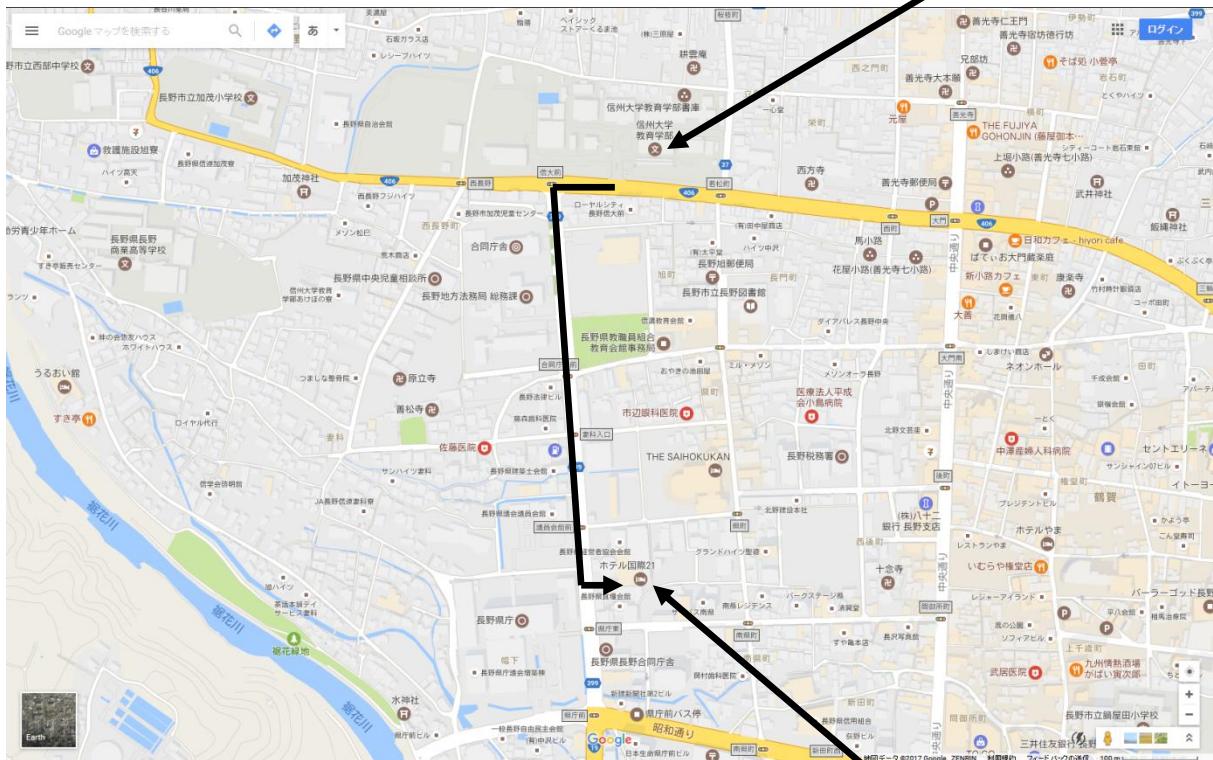
## ■懇親会■

日時： 3月18日(土) 18:30~

会場： ホテル国際21 弥生の間[2階] ※会場から徒歩10分

会費： 5,000円 (学生会員4,000円)

学会会場／信州大学教育学部



懇親会会場／ホテル国際21

■ 3月18日(土) ■

◆学生フォーラム 10:00~12:00◆

【N101教室】

「新たなスポーツ・マスキュリニティ研究に向けて」

登壇者 兼子歩(明治大学政治経済学部) 岡田桂(関東学院大学国際文化学部)

コメンテーター 竹崎一真(筑波大学大学院)

司会 青野桃子(一橋大学大学院) 村本宗太郎(立教大学大学院)

◆一般発表 13:00~14:30◆

【イベント・物語 N101教室(1階)】

座長 海老島 均(成城大学)

13:00~ 中山健二郎(立教大学大学院)・松尾哲矢(立教大学)

高校野球に纏わる「物語」の再生産とそのダイナミズムに関する一考察

13:30~ 津川美香(東京学芸大学大学院)

現代社会における「イベント・スポーツ」の誕生

—ランニング・イベントの事例を通して—

14:00~ 竹内秀一(学習院大学大学院) ※キャンセル※

スポーツの「物語性」を分析する方法論としてのV.プロップ形態学の可能性

【メディア N201教室(2階)】

座長 橋本純一(信州大学)

13:00~ 河野洋(順天堂大学大学院)・趙倩穎(順天堂大学大学院)・北村薫(順天堂大学)

オリンピックリオ大会における日本と中国のウェブコメントの調査

—オリンピックバリューの顕在化に着目して—

13:30~ 山本夏生(一橋大学大学院)

テレビが生み出すエリート像の検討

—2016年リオオリンピック期間中の夜の

報道番組「ニュースウォッチ9」の内容分析から—

14:00~ 渡正(順天堂大学)

パラリンピックの報道をめぐるテキスト分析—1964年と2016年の比較を中心に—

◆国際交流委員会企画 14:45~15:45◆

【E504教室】

◆大会実行員会企画 15:45~16:45◆

【E504教室】

講演者 山本哲士(文化科学高等研究院 ジュエネラル・ディレクター)

「スポーツのホスピタリティと身体技術の非分離・述語制」

◆学会総会 16:45~17:45◆

【E504教室】

■ 3月19日(日) 午前 ■

◆一般発表 9:30~11:30◆

【身体・理解 N101教室(1階)】

座長 高尾 将幸(東京理科大学)

9:30~ 井上翔太(東京学芸大学大学院)

「拡張現実」と現代的な身体についての一考察

10:00~ 岡田光弘(国際基督教大学・教育研究所)

大学体育授業の観察社会学—P. Winchに学び、異文化としての学生を理解する試み—

10:30~ 近藤誓(東京学芸大学大学院)

「信頼」と競馬に関する社会学的一考察

11:00~ 大隈節子(三重大学)

バレーボールにおける技術的關係性に関する研究

—戦術としての『間』に着目した事例から—

【運動部活動・子どもスポーツ N201教室(2階)】

座長 笹生心太(東京女子体育大学)

9:30~ 千葉直樹(北翔大学)

高校バスケットボール指導者の暴力行為に関する認識と指導信条の關係

10:00~ 斎藤貴博(東京学芸大学大学院)

経済的格差における子どものスポーツが持つ「二面性」に関する研究

10:30~ 服部宏治(広島国際大学)・東川安雄(広島大学)・迫俊道(大阪商業大学)

社会的機能を發揮する学校部活動のあり方に関する基礎的研究

11:00~ 白石義郎(久留米大学)

運動競技の京都帝国大学への取り込み

—総長木下広次のオックスケンブリッジ・モデル—



■ 3月19日(日) 午後 ■

◆一般発表 13:00~14:30◆

【伝統・地域 N101教室(1階)】

司会 伊藤 恵造 (秋田大学)

13:00~ Dr. Jung K.S. Wakayama Medical University (Japan) ※単独報告に変更※  
The Conceptualisation of Medical and Health Legacies

13:30~ 原 祐一(岡山大学)

カンボジア王国における小学校「運動会」をめぐる教育省行政官の認識枠組み

14:00~ 松本彰之(日本体育大学大学院)

伝統文化の伝承に関する研究：長野県地域の『屋台獅子』の活動

【ジェンダー N201教室(2階)】

司会 岡田 桂 (関東学院大学)

13:00~ 高峰修(明治大学)

イギリス国内におけるトランスジェンダー・アスリートの新聞報道分析

13:30~ 飯田貴子(帝塚山学院大学名誉教授)・吉川康夫(帝塚山学院大学)・

藤山新(首都東京大学)・来田享子(中京大学)

性的マイノリティについての知識とスポーツに対する

価値観および性に対する態度との関連

◆研究委員会企画 14:45~16:45◆

【E504教室】

「スポーツと視覚」

発表者 伊藤亜紗(東京工業大学) マルソー・シュノー(華東師範大学)

木村敬一(東京ガス/日本パラリンピアンズ協会)

通 訳 倉島哲(関西学院大学)

司 会 リー・トンプソン(早稲田大学) 石岡丈昇(北海道大学)

## ◆学生フォーラム◆

3月18日(土) 10:00~12:00 N101教室

「新たなスポーツ・マスキュリニティ研究に向けて」

登壇者 兼子歩(明治大学政治経済学部) 岡田桂(関東学院大学国際文化学部)  
コメンテーター 竹崎一真(筑波大学大学院)  
司 会 青野桃子(一橋大学大学院) 村本宗太郎(立教大学大学院)

### 【趣旨】

近年、「男性性(マスキュリニティ)」というキーワードがアカデミズムの世界のみならず、一般社会においても再び問題化されるようになってきている。それは、1990年代のバブル崩壊より続く長期の経済成長の低迷によって、男性たちの居場所(会社)に揺らぎが生じ、それと同時に経済力(生産労働)をアイデンティティの拠り所としていた家庭内での男性たちの立場にも揺らぎが生じ始めたことに起因している。こうした状況に対して、アカデミズムは固定的な男性像に対して批判的なまなざしを向け、それとは異なる新しい男性のあり方(男性性の複数性)が出現し始めていることを家庭や会社、文化の場のなかに見だし始めた。こうした男性アイデンティティ研究は〈男性学〉研究と呼ばれ、ここ数年間で多くの研究が蓄積され、近年のスポーツ・マスキュリニティ研究もこの文脈に位置づいている。

しかしながら、このような研究の展開は実は目新しいものではない。多少の理論的な積み重ねはあるものの、理想とされる男性性に対する閉塞感やそれから逃れようとする男性たちの存在は、すでに伊藤公雄によって1990年代初頭に指摘されている(『〈男らしさ〉のゆくえ—男性文化の文化社会学—』)。そのことを大局的に考えるならば、この四半世紀もの間(もっと言えばフェミニズムが出現して以降)、男性(性)のあり方はほとんど変化しないまま、男女間そして男性間の権力関係を維持しつつ今日を迎えていると言っても過言ではない。となれば、今後の男性性研究において重要になることは「どのような男性性が必要か」という男性アイデンティティ論ではなく、「なぜある種の男性性が社会的に要請され続けるのか」という男性性と社会構造の関係を問う研究ではないだろうか。そして、そのように捉えてみると男性性の問題を単なるジェンダー問題として扱うことにも限界が生まれる。多くの歴史研究が解き明かしているように、階級や階層、人種、セクシュアリティ、ナショナリズムといった様々な社会的諸関係には男性性のあり方が色濃く反映されている。言い換えれば、そうした諸問題を考察する糸口として男性性を切り口にする重要性がある。

本フォーラムでは、こうした男性性研究の現在とその課題に先立ってマスキュリニティ研究の新たな視角についての議論を行いたい。そして、男性中心社会として現前するスポーツという文化あるいは制度こそ、この種の議論を行う必要があると考える。

◆国際交流員会企画 特別講演◆

3月18日(土) 14:45~15:45 E504教室

「Aging and Sports」

【講演者】 Elizabeth Pike

The Head of Sport Development and Management,  
Reader in the Sociology of Sport and Exercise and  
Chair of the Anita White Foundation at the University of Chichester.  
The Past-President of the International Sociology of Sport Association.

"In this presentation, I will argue that one of the greatest demographic challenges facing most nations is how to respond to the increasing population of older people, and that this is perhaps nowhere more relevant than in Japan, where more than a quarter of the population is aged over 65. I will consider the public health discourse in neoliberal societies which promotes individual responsibility to engage in 'active aging' in order to 'age well', evaluating the relevance of this for Japan. I will attend to the 'deficit model' of aging; the 'heroic model' of aging; and narratives of aging from my own research giving examples of how older people experience 'authentic aging' through sporting activities."

## ◆研究委員会企画シンポジウム◆

3月19日(日) 14:45~16:45 E504教室

「スポーツと視覚 : 目の見えないアスリートからスポーツ社会学は何が学べるか」

研究委員会では、「スポーツと視覚」を二年間の研究テーマと定めて、活動をおこなってきました。昨年度のシンポジウムでは、ビジュアル・メソッドに論点を定めて、動画利用とスポーツ社会学の理論的可能性について議論をおこないました。そこでは、エスノメソドロジー、科学技術社会論などとの接合も試みられ、今後の探求の方向性が模索されました。

それに対して本年度は、対象をブラインドスポーツにしぼって、「目の見えないアスリートからスポーツ社会学は何が学べるか」を検討したいと思います。注目すべき著作を上梓されている国内外の研究者をお迎えし最新の成果を発表してもらおうと同時に、実践者であるアスリートにも報告いただくことで、研究者／実践者の範疇を溶解させつつ、この二年間の研究テーマを深めたいと思います。

昨年度はビジュアル・メソッドという人間の眼に対して解像度を上げる手法について議論をしましたが、今年度は逆に解像度を下げる—と同時に視覚以外の感覚が用いられるようになる—事態について考察することになります。それはブラインドスポーツの世界を知ることであると同時に、視覚を特権化してきた近代スポーツの存立のメカニズムそのものを捉えかえす作業にもなるでしょう。フロアのみなさんを交えて、新たなスポーツ社会学の知を生み出したいと思います。

### 【発表者】

伊藤亜紗(東京工業大学)

目の見えないアスリートの身体論—運動の条件と技術—

マルソー・シュノー(華東師範大学)

身体アウェアネス教育のための創造的運動と「ブラインド・エクササイズ」

木村敬一(東京ガス/日本パラリンピアンズ協会)

実践者からのコメント

【通訳】 倉島哲(関西学院大学)

【司会】 リー・トンプソン(早稲田大学) 石岡丈昇(北海道大学)

日本スポーツ社会学会

第26回大会実行委員会

委員長 橋本 純一

事務局 橋本 政晴

〒380-8544 長野県長野市西長野6-10  
信州大学教育学部